

今年度の取組目標と報告

1 学力向上の推進

- ①授業を大切にする4原則（始業時間の厳守・終業時間の厳守・授業規律の確保・授業内容の工夫）
→チャイム始業・終業や授業規律については、引き続き学校全体で取組んでいる。学校評価では、教材や指導方法の工夫について、肯定的にとらえている生徒の割合は90%（昨年度88%、一昨年度87%）で徐々に増加している。引き続き、ICT機器を活用進め、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善に取り組む。
- ②朝学習を全学年で実施することにより積極的な学習態度を育てる。→全学年で実施している。
- ③予習や復習を前提とした授業を実践したり日々の課題や週末の課題を生徒に課したりして、家庭学習時間を増加させるとともに、小テストを実施するなどして、知識量の確保と学力の定着を図る。→11月の学習状況調査では、自宅学習時間について1年生は昨年度を上回り約13%の増加があったが、2、3年生はともに減少しているために改善の必要がある。
- ④学力スタンダードを設定し、教員の授業力向上と授業実践によって学力向上を図る。→5教科で実施。
- ⑤GTEC、英語検定、漢字検定等の各種検定に積極的に挑戦する態度を醸成し、進路活動に役立てるとともに、学習の動機付けのひとつとする。→英語検定13合格（昨年32名）、漢字検定10名合格（昨年8名）
- ⑥日本の伝統・文化について学習するとともに、オリンピック・パラリンピックやその参加国の特色等について学習する。→感染症対策のために計画していた伝統・文化に関わる行事は実施できなかったが、オリンピック・パラリンピック教育の一環として、パラスポーツの体験を実践した。また、各教科において、教材に関連した内容を通してオリパラ教育を実施した。
- ⑦教科等において主権者教育を実施し、計画的に政治的教養や政治的活動についての判断力を育成する。
→選挙の模擬投票体験の実施などとともに、科目政治経済を中心に実施した。
- ⑧生徒の学力向上を図るために、平日放課後や土曜日等に計画的に講習を設定する。→今年度から「大学進学特別講習」を5教科において2学年で実施した。実施日の適切化やねらいの明確化は成果があったが、参加生徒数が少なかったことに課題が残った。
- ⑨第3学年の1月は進路別の特別時間割による授業を実施し、進路実現に向けた効果的な学習を行う。
→感染症対策のために新たな授業クラスの設定及び特別時間割の編成を回避し、通常通りに実施した。

【数値目標】・学力調査における目標到達度 85% → 82%（昨年81、一昨年76）

・家庭学習時間 一日の平均学習時間1時間以上の生徒の割合

1、2年生30%以上、3年生60%以上（11月調査）

→1年生44%（昨年41）、2年生19%（27）、3年生48%（61）

2 教育力の組織的向上

- ①進学指導や面談指導などについての教員研修を充実させ、学校全体の教育力を向上させる。
→データ活用の教員研修を活かし、実力テストを基にした個人面談を1、2学期に実施した。
- ②昨年度作成した次期学習指導要領分析レポートをもとに、令和4年度導入の本校の教育課程の編成を行う。
→教育課程委員会を中心に検討を重ね、令和4年度から実施する本校の新教育課程を決定した。
- ③各教科で次期学習指導要領の学習内容の研究を進め、「主体的で対話的な深い学び」を実現するために、知識・技能を基盤とした思考力・判断力・表現力等の育成と、学びに向かう力や主体性を高める授業を実践する。
→80%以上の教員がアクティブ・ラーニングの視点に立った授業に取り組んでいる。さらに研修を重ね効果的な学習指導を実践していく。
- ④各教科等で公開の研究授業及び研究協議会を行うとともに、授業見学期間を設定して相互に授業を参観したり、他校の授業を見学することを通して、教科指導力の向上及び授業の改善を図る。→相互授業見学期間を設定し、一人2回以上の授業見学を実施、見学記録と授業改善のまとめを作成した。
- ⑤「進学指導研究校」として、大学入学共通テスト試行調査（プレテスト）、模擬試験の新傾向問題等の分析を進め、教科及び全教員で共通理解を図るとともに、教科指導に活かす。→プレテスト及び新傾向模試問題の分析を5教科で実施し、分析レポート冊子（32ページ）を作成した。
- ⑥主任教諭が中心となり組織的なOJTをとおして、若手人材の育成を図る。
→配置された新規採用教員及び若手教員研修受講者を中心に、教科の指導教員や分掌主任が中心となって、様々な場面でOJTを実施し、人材の育成を図った。

- ⑦ ICT機器の活用を推進し、生徒の興味・関心を高める授業を展開する。
→授業でICT機器を活用している教員の割合は80%を超え、ICT機器の活用が一般化してきている。
効果的な活用方法のさらなる研究を推進する。

- ⑧定期的に授業評価を行い、授業改善に活用する。
→年3回実施し、教員にフィードバックし、必要に応じて管理職から指導している。

- 【数値目標】・授業に対する生徒の肯定的評価 90%以上 → 82% (昨年度84%)
・教員研修の計画的実施 教育課程への位置づけ年5回 → 5回
・ICTを活用した授業の実施(観察授業で1回以上)全教員の80%以上→81% (昨年度72%)
・相互の授業見学の実施 一人年間2回以上 → 全員が2回以上実施、見学記録を作成

3 キャリア教育の推進

- ①2学年総合学習におけるキャリア教育を中核とし、キャリア教育を推進する。
→分野別説明会、及びWEBを含めたオープンキャンパスへの参加等をとおして、進路実現のための手立てを調査・研究した。
- ②進路体験発表、卒業生講話、同窓生からの講話を充実させ、生徒のキャリア意識を啓発する。
→感染症対策のために実施できなかったものもあるが、全体講演会・進路別講演会等を実施した。
- ③図書委員会を活性化し、読書活動の推進と図書館の活用を図り、読書習慣を確立する。→感染症対策のために図書委員会の活動が十分に実施できなかった。司書教諭を中心として図書館の活用を推進した。
- ④教科「人間と社会」による道徳教育とキャリア教育を推進する。
→感染症対策のために地域や外部の方々との接触のある活動に制限があったか、地域清掃の実施など「人間と社会」を活用し道徳性を涵養した。

- 【数値目標】・進路実現率 95%以上 → 90.3% (昨年度91.9%)
・進路未決定率 3.0%未満(進学準備者は除く) → 2.6% (昨年度2.0%)
・中途退学率 0% → 0.6% (昨年度0.4%)
・未読者率 30%以内 → 28.4% (昨年度東京都調査)

4 進学指導体制の強化

- ①個々の生徒の進路希望に応じたオーダーメイドの進路指導を展開するために、年2回面接週間を設定し、外部模擬試験等の結果を活用した担任による個別面接を実施する。また、3年間の進路希望及び学習状況を記録した「カルテ」や進路第一希望等を学校へ届け出る「マニフェスト」を活用し、目標設定を明確にさせ進路実現を確実なものにする。→マニフェストを提出して目標の明確化を図り、模擬試験の結果やICT等を活用して、年2回の面接を実施した。
- ②面接週間終了後に学年ごとにねらいをもった「進路検討会」を開催し、個々の生徒の学習状況や進路希望等を教員間で共有し、生徒の学習支援に活用する。→感染症対策のために予定された検討会等を十分に実施することができなかった。生徒個別の情報を活かしたケース会議等を実施していきたい。
- ③2学年より特別進学クラスを設置し、効果的な指導を工夫して難関大学を目指す生徒の学習を支援する。
→3学年は1クラス、2学年は2クラスを設置、1学年は次年度2クラスを設置する。
- ④参加希望者による「勉強合宿」を実施し、進学を目指す生徒の学習を支援する。→感染症対策のために宿泊を伴う行事は中止とした。
- ⑤就職希望、公務員希望の生徒への対策指導を充実させ、進路実現を図る。→実施済み
- ⑥土曜補習、予備校によるライブ授業を活性化する。→ライブ授業を感染症状況に対応ながら2学期より15回の実施とした。申込者は1年生79名で、前半の参加は良かったが、部活動との兼ね合いや学習意欲の継続が難しいなどが関係して、参加者が後半減少する課題があった。
- ⑦長期休業中等の講習に生徒が参加しやすい環境を整え、センター試験、大学受験対策などを実施する。
→夏季休業が2週間であったが、2週間に直して比較すると参加数は昨年比1.5倍を超える人数となった。
- ⑧大学生等を「チューター」として自習室に配置し、放課後の学習を支援する。
→年間を通しておよそ週2回チューターを予定していたが、感染症対策のため大学生の派遣ができないことと、速やかな下校を求めるために計画通りには実施できなかった。

- 【数値目標】・センター試験受験者数 170名以上 → 7クラス181名 (昨年度8クラス197名)
・大学合格者数 国公立早慶5名 GMARCH10名 日東駒専30名
→国公立早慶0名 (昨年度0名) GMARCHR0名 (昨年度2名、一昨年度0名)
日東駒専13名 (昨年度31名、一昨年度8名)

- ・大学・短大進学率 65% → 56.8% (昨年度57.3%、一昨年度55.7%)
- ・公務員希望者の合格率 50% → 受検者数3名、合格者数1名
- ・大学進学特別講習の参加者数 延べ300名以上 → 30回129名
- ・ライブ授業の受講者数延べ1000名以上 → 15回680名 (昨年度21回1449名)
- ・長期休業中の講習 大学受験用3年生対象 40講座以上 → 全学年で25講座
1、2年生向けの講座 40講座以上 (昨年度49講座)

5 生活指導の更なる徹底

- ①遅刻指導、頭髪・服装指導を継続し、落ち着いた校風を維持する。
→授業開始前の全教員による身だしなみ指導週間での実施を年2回行った。
- ②朝の登校時での声掛けを継続的に行い、進んで挨拶する習慣を身に付ける。
→生活指導部を中心に毎朝実施した。感染症対策のために生徒会生徒等の挨拶運動への参加は見送った。
- ③自転車事故防止（雨天時のレインウェアの着用）の指導を徹底し、交通事故を0件とする。
→学校前での一列走行や左側走行等が改善されていることが近隣の声としてもあげられている。引き続き雨天時のレインウェアの着用の徹底を進めていく。
- ④美化委員会を中心とした校内美化活動などとおして、美化意識を醸成し、美化活動を徹底する。
→清掃活動が徹底されている。感染症対策としての清掃・消毒やゴミ分別等も良好に実施できた。
- ⑤心と体の健康を保つ指導や自尊意識を高める取組とおして、生命尊重教育の実践を推進する。→ 保健室やカウンセラーからの定期的な便りによる意識向上の取組、教員による情報共有、見守り等を実践した。
- ⑥いじめに関するアンケートを年間3回実施する。学校いじめ対策委員会を活用し、いじめの防止を図る。
→実施済み
- ⑦暴力行為・体罰を根絶し、安心・安全な学校を維持する。
→暴力行為・体罰は0件、引き続き根絶を目指して全教職員による指導を徹底する。
- ⑧薬物乱用防止、セーフティ教室による安全教育と宿泊防災訓練等による防災教育の充実を図る。
→感染症対策のために宿泊防災訓練は中止とした。他にも十分に実施できなかったものがあつた。
- ⑨体育科の授業や運動部活動において、体力の向上を図るとともに、足立保健所等と連携し、健康指導、保健教育を充実させ、健康増進を図る。→感染症対策のガイドラインに基づき、体育授業、体育的行事、部活動をできるだけ実施できるよう取り組んだ。
- ⑩スクールカウンセラーと連携し、教育相談委員会を年10回開催し、特別支援教育・教育相談の充実を図る。
→教育相談委員会 10回実施。

- 【数値目標】・遅刻率 各学期の指導対象者数5%以下 → 4.1% (昨年度4.5%、一昨年度5.8%)
- ・宿泊防災訓練、避難訓練 年4回 → 宿泊防災訓練は中止、避難訓練を年4回実施済。
 - ・交通事故 0件 → 1件 (教育委員会報告のもの)
 - ・外部評価「生徒の頭髪・服装など身だしなみ」への肯定的評価 90%
→ 76% (昨年度63%)
 - ・外部評価「通学マナー」への肯定的評価 70% → 52% (昨年度37%)

6 部活動・特別活動の活性化

- ①体育祭・文化祭・合唱祭などの企画・運営をとおして、生徒の主体性を育成するとともに、学校行事の充実を図る。→感染症対策のために、体育祭、弥生野祭、合唱祭、球技大会等が中止となった。ガイドラインに基づいて実施可能な形に企画を修正し、ミニ体育祭、クラスマッチ、パラスポーツ体験等を工夫して実施した。生徒の主体性、組織力、コミュニケーション力等を育成する場面が十分に確保できず課題となった。
- ②生徒の自主的な活動を支援することにより、生徒会活動を活性化する。
→感染症対策のために、生徒会による学校説明会での学校紹介、朝のあいさつ運動、地域貢献活動等を実施することができなかった。
- ③部活動を活性化すると同時に、学業との両立を図り、文武両道を進める。
→陸上競技部が関東大会優勝及び入賞、軟式野球部が都ベスト16、男子バスケットボール部が都ベスト32、サッカー部、女子バレーボール部、ダンス部、水泳部等も様々な場面で活躍した。
- ④体育の授業と連携しながら、体育的行事や部活動を通して生徒の体力の向上に取り組む。→感染症対策のガイドラインに基づき、体育授業、体育的行事、部活動をできるだけ実施できるよう取り組んだ。
- ⑤式典の適正な実施にむけて、生徒の指導を行う。→ 実施済み

- 【数値目標】・部活動参加率 85%以上 → 82% (昨年度78%)

・「部活動・学校行事への積極的取組」に対する肯定的評価90%以上 →90% (昨年度91%)

7 外部との連携の推進と広報活動の充実

- ①教科「人間と社会」や部活動による地域活動への参加を推進する。 →地域清掃等の地域貢献活動を実施した。感染症対策のために地域との連携活動に制限が生じ、例年行っていたボランティア活動等が実施できなかった
- ②中学校・高校の教員や生徒の交流をとおして、学習や特別活動における中高連携・高大連携を推進する。 →足立第四中学校のサマースクールへの生徒のチューター派遣や、地域貢献活動、部活動の体験入部等が、感染症対策のために実施することができなかった。
- ③PTA・同窓会との連携を図ることによって、生徒の支援体制を強化する。 →毎年実施のPTAによる体育祭や文化祭での生徒支援、同窓会による同窓生講演は、感染症対策のために今年度は実施できなかった。
- ④令和4年度に開催の本校創立100周年記念式典に向けた実行委員会を設置し、PTA・同窓会と連携を図り準備を進める。 →創立100周年記念式典準備委員会を開催。実行委員会の設置は令和3年度する。
- ⑤学校運営連絡協議会や外部評価を活用し、学校の教育改善を進める。 → 実施済
- ⑥足立区教育委員会等との連携を深める。 →中学校と高校との連絡協議会等への参加を行った。

【数値目標】・外部評価「開かれた学校」への肯定的評価 65% →20% (昨年度22%)
・外部評価「地域社会への貢献」への肯定的評価 65% →32% (昨年度22%)
・外部評価「地域社会への防災・ボランティア貢献」への肯定的評価 65%
→52% (昨年度28%)

8 広報活動の充実と募集対策

- ①ホームページの活用をさらに推進するとともに、中学校や学習塾への訪問等の積極的な広報活動を推進する。 →ホームページ更新回数が大幅に増加。塾対象説明会を2回実施、学習塾訪問を延べ116教室実施した。
- ②学校見学会、学校説明会、授業公開を充実させ、「開かれた学校」を推進する。 →感染症対策のために、学校見学会、授業公開、個別相談会を中止とし、学校説明会はweb 申込により人数を制限して実施とした。ホームページに動画による学校説明を7本載せたり、個別の学校見学を実施したりして、一定の成果を得たと思われる。
- ③広報紙、ポスター、学校案内等を配布し、中学生・保護者の本校教育活動への理解を促し、受検希望者数を増加させる。 →昨年に続き9月に、足立区立中学校35校4198人の中学3年生に学校便りを配布した。

【数値目標】・HP 更新回数65回以上(全日) → 96回以上 (昨年度116回以上)
・アクセス数10万件以上(全定) → 13.6万回 (昨年度10.5万回)
・学校見学会、説明会、授業公開 参加者数延べ3000人以上
→ 1201名 (昨年度3487人)
・受検希望者数 前年比10%増 → 14%減 (昨年度3%減、一昨年度9%増)

9 ライフ・ワーク・バランスの推進

- ①各種会議の効率的な実施や、計画的な仕事の進め方による業務の効率化を図り、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を推進する。 →登校時の生徒健康チェックのIT化を進めた。登校時の生徒指導のための交代制時間勤務を検討中である。昼のパン販売の教員当番を廃止した。まだ不十分であり、今後の取組について検討を続けている。

10 適正な事務処理と経営企画機能の発揮

- ①個人情報保護の徹底を図り、事故ゼロとする。 →事故ゼロ
- ②適正な予算執行を行うとともに、学校経営計画及び予算編成指針に基づいた効率的な予算立案を行う。 →実施済み
- ③就学支援金及び奨学のための給付金について保護者への周知を徹底し、適正に申請を処理するとともに、授業料や学校積立金等の徴収について適切に実施する。 →実施済み
- ④各分掌事務を適正・迅速に執行する。 →実施済み
- ⑤起案に基づく適正な意思決定の徹底を図る。 →実施済み
- ⑥経営企画機能を発揮し、学校の経営力を向上させる。 →実施済み
- ⑦図書館機能を充実することによって、生徒の読書習慣を定着する。 →昨年度の東京都調査結果、不読率は東京都平均を下回っている。さらに読書週間の定着を図る取組を推進していく。